

### 第3回 日向市都市計画マスタープラン・立地適正化計画改訂委員会

2026年2月17日(火)14:00-15:40

#### 1. 開会・挨拶

#### 2. 議事

##### (1)市街化調整区域等における既存集落の維持について

桑野委員 ただ今の説明に対し、質問等はあるか。

A 委員 農地の多くが地権者と耕作者が異なる状況にあり、後継者不足が深刻である。現行制度では農家後継者以外の住宅建築が難しく、若い世代が地域に残りにくい実情がある。集落維持の観点から、農業のやる気のある方々に対してなど、一定の制度運用の柔軟性を持たせることも必要ではないかと思う。

桑野委員 地域コミュニティの立場から、B委員のご意見を伺いたい。

B 委員 調整区域において、次男・三男世帯が地元に住み続けられない状況がある。土地利用規制の緩和について、一定の見直しをしなければ、集落の存続は難しいと考える。

桑野委員 素案で整理されている市街化調整区域に関する考え方、方向性について、専門の立場からC委員はどのようにお考えでしょうか。

C 委員 方向性としては妥当であると思う。ただし、「既存集落」という用語が市民にとって分かりにくいいため、対象区域を図示するなど、明確な説明が必要だと思う。

桑野委員 ご指摘の通り、市民へのわかりやすさは重要である。

事務局 C委員が言われたように、既存集落に関する説明をどこかに記載したいと思う。

桑野委員 他にご意見はあるか。

D 委員 35ページ(1)の冒頭部分について、最初の一文で「市街化調整区域の無秩序な緩和は」という表現がある。この表現だと誤解を招く可能性があるのではないか。規制内容の見直しなのか、区域の縮小なのか不明確であるため、表現を整理すべきである。

桑野委員 ご指摘の通り、適切な文言整理が必要であると思う。

事務局 表現について、誤解が生じないように再度検討する。

桑野委員 E委員、いかがか。

E 委 員 特に問題はないと思う。  
市街化調整区域は、農地を維持するために大事な区域である。農業従事者は今後さらに減少が見込まれる中、どのように農地を守っていくのかは考える必要がある。

桑野委員 F委員いかがか。

F 委 員 これまで皆さんが課題として挙げていた市街化調整区域について、基本的に開発が難しいところをどういうふう緩和するか、という内容も含まれているため、内容の書きぶりについて特段意見はない。

桑野委員 G委員いかがか。

G 委 員 私も表現について、特に違和感はない。  
案として挙げられている(仮称)集落振興計画については、どの程度の規模単位で計画をつくる必要があるかは今後ご検討いただければと思う。細かすぎると数が多くなるため、計画を作ることが大変になると思う。

事 務 局 規模単位については、現時点では明確なものはない。住戸数で見ると、地区単位で見ると、地形やインフラの整備状況も加味しながら規模単位は検討していくイメージを持っている。

桑野委員 H委員、環境保全、自然の問題も出てきているが、何かお気づきの点はあるか。

H 委 員 先程、農業分野でも話があった通り、林業も同様に後継者不足という問題がある。山間地域は伐採の跡地が多い。伐採する業者は多いが、再造林する業者が減ってきている。県も再造林率の増加に力を入れているため、伐採跡地の解消をしながら、災害に強い山づくりを進めていければと思う。

桑野委員 I委員いかがか。

I 委 員 表現に関しては特に問題ないと思う。  
他県では調整区域の緩和により市街化区域以上に開発が無秩序に進んでしまったことにより、インフラ不足や環境問題が生じた事例もある。そのため、慎重な制度設計とモニタリングが不可欠である。

桑野委員 このテーマについては、各委員からご意見を頂いた通り、既存集落維持は重要であるが、無秩序な開発を招かない制度設計が前提であるということが重要である。また、用語の明確化と、市民に分かりやすい説明を行うことが必要である。他にご意見がある方はいるか。無ければ次のテーマに移る。

## (2)産業促進観光リゾート等のゾーニングについて

桑野委員 次に産業促進・観光リゾートゾーンについて議論する。  
J委員いかがか。

J委員 観光は広範な分野にわたるものであり、入郷圏域や門川町、さらには延岡市、大分県佐伯市まで含めた広域連携を進めている。歴史・文化・芸能等を一体的に発信する取組を行っているところである。  
本計画は日向市の計画であるため、日向市を中心に記載せざるを得ないことは理解するが、広域連携の視点がやや弱く感じられる。

桑野委員 広域連携の記述が不足しているとの指摘であるが、具体的にはどのような点か。

J委員 市町村間の連携を積極的に進めていく旨を、より明確に記載してほしいという点である。

桑野委員 観光はネットワーク型で展開されるものであり、重要な視点である。事務局の見解はいかがか。

事務局 日向市、門川町、入郷圏域、さらには佐伯市を含めた日豊海岸の連携については、各種連絡会議等も設けているところである。  
記述については広域連携の視点がより明確となるよう修正を検討する。

桑野委員 続いて、広域交通基盤との関係についてF委員何かお気づきのことはあるか。

F委員 「元気で活力ある産業が育つ都市づくり」の項目において、九州中央自動車道の記載があってもよいのではないかと。  
高規格道路と細島港とのネットワークは、広域観光や産業振興に関連すると思われるので。

桑野委員 的確なご指摘かと思うが、事務局の考えはいかがか。

事務局 九州中央道については国への要望も継続しているため、記載を検討したい。  
また、自転車道やサイクリング環境整備についても道路施策の中で触れているが、表現について不足があれば修正を検討する。

桑野委員 G委員いかがか。

G委員 私も九州中央道は含めるべきだと思う。また、「10号や327号等、日向市の持つ特性を」という表現がわかりにくい印象である。  
都市計画マスタープランとしては、中央道やアクセス道路等も含めた「広域交通基盤を最大限に生かし」といった包括的な表現の方が良いのではないかと。

桑野委員 この表現について、事務局の見解を伺いたい。

事務局 ご提案いただいたような表現で修正する。

桑野委員 D委員いかがか。

D委員 都市計画マスタープランに細島港を拠点として位置づけていただいたことは非常にありがたい。我々も都市づくりの中で港の役割をしっかりと果たせるように取り組んでいきたい。表現に関しては特に異論はない。

桑野委員 続いてK委員、何かお気づきのことはあるか。

K委員 商工業は人手不足が深刻化しており、特に外国人労働者の存在は重要になっている現状がある。都市計画との直接的な関係はないかもしれないが、産業振興の観点から人材確保や多様性の視点を含めることはできないか。

桑野委員 人口減少下において、産業分野での人材確保、多様性・インクルージョンの視点は重要である。このような視点を都市計画の中でどのように位置づけるのか難しいところもあると思うが、市として何か考えはあるか。

事務局 市内でも外国人居住者は増加しており、公共交通や市街地利用も見られる。多言語対応等はこれまでも観光分野で取り組んできたが、都市計画マスタープランの中での位置付けについて検討したい。

桑野委員 続いて、漁業と観光の連携についてL委員、何かご意見はあるか。

L委員 基本的な方向性は妥当だと思う。直売所の取組など観光との連携は進めているが、幹線道路からのアクセスや分かりやすさの向上が課題であると感じている。また、先程ご意見があったが、「日向市の持つ特性」という表現はわかりにくいと感じる。

桑野委員 「保全と活用の両立」について、現場での課題はあるか。

L委員 釣り客のごみ問題や、台風後の流木処理など小さな課題が積み重なっている。特にお倉ヶ浜では災害後の復旧に時間を要すると観光資源である海岸が生かされなくなってしまう。観光資源の維持管理は重要な課題であると感じている。

J委員 L委員のご意見に補足する。観光の分野では、農業・漁業体験ツアーは一定の成果を上げている。一方で最大の課題は宿泊施設の不足であり、通過型観光となっている。外国人観光客も増加しているが、滞在型観光を支える旅館・ホテルが不足している。また、廃ホテルや温泉施設跡地の活用、国定公園区域内の規制との関係も課題である。

桑野委員 国定公園に関する土地利用の規制と活用について、F委員、何かご意見はあるか。

F 委 員 所管していないので何とも言えないが、国定公園の規制緩和は容易ではない。計画に直接緩和を記載することは慎重であるべきで、自治体と連携して検討する必要がある。

桑 野 委 員 国定公園の活用に関しては、計画の枠組みを逸脱しない範囲で、将来的な可能性を考えていく必要がある。

桑 野 委 員 J 委員、日向市において、オーバーツーリズムの問題はあるのか。

J 委 員 現在、そのような問題はない。やはり、宿泊施設や滞在できる場所が不足していることが問題である。

桑 野 委 員 他に何かご意見がある方はいるか。事務局は何かご意見等はあるか。

事 務 局 市ではワーケーションやデジタルノマド推進に取り組んでいる。調整区域での仕事場確保など、制度面の課題もある。ゾーニングや交流人口拡大の視点を都市計画マスタープランに位置付けられるよう検討したい。

C 委 員 観光分野になると思うが、鉄道についてもどこかで触れておいた方がいいのではないか。期待を込める形になるが JR さんとの取組み等も考えられると思うので。

桑 野 委 員 事務局、いかがか。

事 務 局 JR さんとは日頃から意見交換を行っており、ダイヤ改正など様々な取組が進められている。特に宮崎空港から延岡まで直結する鉄道は、広域的に利活用可能な重要なインフラであると認識している。また、日向市駅を拠点として、馬ヶ背など観光地へのアクセスや、現在導入を進めている AI オンデマンドバス(従来の「ぷらっとバス」に代わる交通手段)との接続強化についても、庁内で検討を行っているところである。これらを踏まえ、JR 日豊本線の持つポテンシャルについても、本計画の中に適切に盛り込む方向で検討したい。

桑 野 委 員 本日の議論を踏まえ、広域連携、交通基盤、宿泊機能、未活用資源、ワーケーション等の視点について記述の充実を検討することとする。

### (3)事前復興まちづくりを想定した土地利用のあり方について

桑野委員 事前復興まちづくりの定義については記載があるか。

事務局 P.46 ページを中心に記載している部分もあるが、読み手が分かりやすいように構成を修正したい。

桑野委員 自助・共助・公助の観点から、地域での取組状況について意見を伺う。B委員、地区防災計画や個別避難計画との関係も含めて、現状はいかがか。

B委員 地域でも事前復興について議論している。高台を活用した拠点整備の考えがあり、被災後に道路が寸断されることを想定し、機械や燃料などを備蓄する必要があると認識している。  
計画の中にそのような具体的なイメージが示されると分かりやすい。また、自助・共助の観点では、近隣住民同士の助け合いを重視する取組を進めている。

桑野委員 地区単位の防災意識と都市全体の構造が連動することが重要である。  
M委員、何かご意見はあるか。

M委員 建物の復旧・再生については、労働者不足により復興が遅れる懸念がある。  
また、被害想定公表方法には配慮が必要である。過度に死者数を強調する表現は、住民の不安や風評被害を招く恐れがある。  
防災の重要性は理解するが、刺激的な表現は避けるべきである。今回の素案を見るとそのような表現が無いので良いと思う。

桑野委員 不必要な不安をあおらず、防災・減災・復興が財産や命を守るものであることを前向きに示すことが重要である。市民のハレーションが起きないように注意する視点も必要かと思うが、事務局はどのように考えるか。

事務局 立地適正化計画策定時から同様の懸念は認識している。今回の事前復興まちづくりは、市街地を「捨てる」のではなく守る姿勢を明確にするものである。  
市街地の機能を維持しつつ、被害を最小限に抑え、復旧のスピードを早めたいと思っている。

桑野委員 災害関連死の問題も含め、医療機能の重要性について、N委員何かご意見はあるか。

N委員 南海トラフ地震が発生した場合、日向市は甚大な被害が想定される。  
幹線道路や鉄道が寸断され、外部支援は数日遅れる可能性が高い。  
その間、地域の二次医療機関が医療機能を維持できる体制が不可欠である。  
水・電力・通信の確保が重要であり、医療機関を防災拠点として位置付けることも検討してほしい。

桑野委員 医療機能は都市機能の中でも特に災害から守るべき機能だと思うが、事務局は何かご意見等はあるか。

事務局 二次医療機関の位置付けについては、図面上の整理も含めて検討の余地がある。医療施設との関連付けを強化し、記載方法を再整理したい。

桑野委員 F委員、何かお気づきのこと等はあるか。

F委員 資料中の「原位置の嵩上げ」という表現は、過度に受け取られる恐れがある。市街地全体を嵩上げるわけではないと思うので、「高層化等」といった表現に修正するなど、選択肢の一つとして示す方がよいのではないかと。  
また、門川町との広域連携の位置付けについて確認したい。何か協定を結んでいるのか。

事務局 嵩上げについては検討が必要な地区はあるが、表現方法については再検討する。門川町とは事務方同士で事前復興まちづくり計画を共同で検討しており、勉強会や情報共有を行っている。

F委員 国としても南海トラフ地震を想定した九州道路啓開計画として東進作戦という構想を立てたり訓練を進めたりしている。今後も日向市さんと連携を図っていきたい。

桑野委員 G委員、何かご意見はあるか。

G委員 私も嵩上げ・高層化・移転などは選択肢として総合的に検討する旨の表現がよいと思う。県としても道路管理者の立場から、日向市さんの事前復興計画と連動した防災対応を進めたい。

桑野委員 D委員、何かご意見はあるか。

D委員 細島港を広域拠点として物資輸送機能を強化する方針は妥当で良いと思う。

桑野委員 A委員、農業分野への影響という観点で何かご意見はあるか。

A委員 優良農地を中心に活用していくことが重要であり、全体としては適切に対応すれば大きな問題にはならないと考える。

桑野委員 E委員、何かご意見はあるか。

E委員 農業は自然災害の被害をまともに受ける分野である。復興においては、生産者の方の継続の意思も含めて、取り組んでいかないといけない。復興は農協や生産者だけではできないので、県や国の補助を受けながら復興をしていくことになるかと思う。

桑野委員 農業は県にとっても市にとっても基幹産業であり戦略的な産業なので、お二方の意見は重要なヒントになると思う。

K委員、何かご意見はあるか。

K 委 員 日向市では災害時を想定した自衛隊の訓練が行われている。河川を活用した上陸拠点の可能性も考えられると聞いたことがある。広域拠点として、位置付けを再検討してもよいのではないかと少し思った。

桑 野 委 員 事務局の方で何かご意見等はあるか。

事 務 局 位置付けについては確認のうえ検討する。

桑 野 委 員 観光と災害対応の関係について、J委員、何かご意見等はあるか。

J 委 員 観光客の避難誘導體制が最重要である。地域住民は自らの対応で手一杯となるため、宿泊施設や観光事業者が主体となったマニュアル整備が必要である。現状では標識で避難所等の情報を示しているが、それだけでは不十分であり、誘導體制の強化が求められる。

桑 野 委 員 アプリ等の活用も含め、今後の検討課題である。  
それでは、最後にI委員、何かご意見はあるか。

I 委 員 災害後の復興は都市計画の再構築の機会でもある。歴史的にも震災復興は都市改造の契機となってきた。  
インフラの余力や広い道路空間を活かし、自転車活用や新たな都市の魅力創出につながる視点も重要であると思う。

桑 野 委 員 従来の復旧ではなく、課題を踏まえた新たな都市像を描くことが事前復興の本質であるということだと思うが、事務局はどのように考えているか。

事 務 局 現実的な視点と将来像の双方を踏まえ、魅力ある復興像を示すことが重要である。自転車活用や公共交通との連携なども含め、今後検討していきたい。

桑 野 委 員 他に意見がなければ、本議題については以上とする。

#### (4)その他

桑野委員 本日、次第に沿って(1)(2)(3)について議論を行い、各委員から質疑・意見をいただいた。

それ以外に、事務局へ伝えておきたい事項等があれば伺いたい。

D 委員 本日の議題とは直接関係しないが、66ページの細島地域の構想は、従前計画を踏襲しており大きな変更はないと認識している。67ページの図面に示されているとおり、商業港地区は概ね整備が完了している一方、工業港地区では未整備の護岸や大規模岸壁が残っている状況である。しかし、本文では両地区ともに「機能強化」という同一の表現が用いられている。整備が概ね完了している商業港地区については「機能の維持」や「増進」といった表現とし、未整備区域が残る工業港地区については「強化」とするなど、地区の成熟度に応じて表現を使い分けることを検討してはどうか。

桑野委員 表現の整理に関するご指摘だが、事務局はどのように考えているか。

事務局 ご指摘のとおり、商業港地区では海の駅細島の整備などにより、機能の在り方が変化してきている。一方、工業港地区では新たな岸壁整備や工業団地整備など、今後の開発余地が残っている。そのため、地区ごとの状況を踏まえ、「維持」「増進」「強化」など表現のトーンを整理し、適切に書き分ける方向で検討する。

桑野委員 他に意見はないか。それでは、本日の議論全体について、部長から所感を願います。

事務局 本日は多くの貴重なご意見をいただき感謝する。日向市は市街化区域に市民の約80%が居住しており、比較的コンパクトな都市構造である。一方で、市街化調整区域の活用については、議会や市民から未利用地の有効活用を求める声が継続的に寄せられている。

これまでの都市計画マスタープランでは、土地利用の具体的な方向性が十分に明示されておらず、個別事業を進める際の制約となる場合もあった。

今回の改訂では、土地利用の方針を明確に位置付けることを意図しており、本日いただいたご意見を反映させながら、今後の日向市の発展につなげていきたいと考えている。

桑野委員 本日は各委員から多様かつ活発なご意見をいただいた。事務局ならびに日向市、受託事業者においては、本日の議論を踏まえた整理をお願いします。

本日の議論は大変有意義であり、今後とも協力をお願いします。それでは、進行を事務局へお返す。

### 3. 今後のスケジュール

### 4. 閉会